

目次

	[1998年]	9
1	山本雄一の代表歌	
2	老年についての言葉	
3	川の流れのように	
4	古典のテキスト	
5	『万葉集』の桜	
6	教科書に出てくる歌人	
7	「結社」について——『戦後短歌結社史』	
8	また八月が来る	
9	国際化のなかの短歌	
10	日本語の特質——海外子女作品	
11	一少女の歌	
12	幸福探し	
	[2000年]	48
13	職人の眼	
14	白洲正子と車谷長吉	
15	老人の主張	
16	題詠について	
17	『万葉集』の食	
18	老大樹	
19	日常詠の可能性	
20	『梁塵秘抄』のこと	
21	「清らけく」など	
22	「君が代は」	
23	セザンヌ展	
24	ドン・キホーテ	
	[2000年]	48
25	創刊号の言葉	
26	朝日賞の記事から	
27	『倚りかからず』	
28	眼鏡店の主	
	[1999年]	28

- 29 直木孝次郎『夜の船出』
- 30 中村稔『啄木の魅力』
- 31 画家とコンピュータ
- 32 画家とコンピュータ（続）
- 33 「家族を問う」
- 34 歌 碑
- 35 宮代町——「木をうたう人の心」
- 36 昆虫の話
- 〔2001年〕……………68
- 37 ポンペイの遺跡
- 38 『徒然草』一二九段
- 39 「良寛さん」
- 40 東巴文字
- 41 島崎藤村の詩
- 42 第二回斎藤茂吉短歌文学賞——森岡貞香『夏至』
- 43 これからの価値観
- 44 八・一五とベアテの会
- 45 切ない歌——山崎方代（紅野敏郎）
- 46 中野菊夫氏の逝去
- 47 八木重吉の詩と推敲
- 〔2002年〕……………87
- 48 青と緑——小松英雄
- 49 『倚りかからず』再論
- 50 『声に出して読みたい日本語』
- 51 雑誌の運命
- 52 川野車人形
- 53 ある山岳写真家のこと——岡田昇
- 54 人——久保喜太郎／須田朱八郎／橋本義夫
- 55 多摩川の河口めぐり
- 56 アフガンの月——新聞歌壇
- 57 四三年前のハガキ
- 58 韓国の伝統詩「時調」
- 59 大会の賞——ある事例
- 〔2003年〕……………109
- 60 「不忠臣蔵」
- 61 七三年前の新聞

3 目次

62	遊狂の人——高松秀明
63	桜づくし
64	「古木の桜」と「生き方」
65	外来語
66	簡単短歌——枡野浩一
67	説 経
68	ある留学
69	この夏の映画
70	絞れるのは何か
71	美しい日本の歌
	〔2004年〕……………132
72	雪
73	辞 書
74	老年の人格
75	今年の芥川賞
76	香月泰男の「黒」
77	農
78	螢 狩

79	龍宮——対馬
80	「阿弥陀堂だより」
81	山椒大夫——丹後の由良
82	高度の情緒力
83	「366日空の旅」
	〔2005年〕……………156
84	ファウスト博士
85	片山貞美氏の文を読む
86	『今昔物語』の動物
87	現実——理想——倫理——九条の会
88	ルーツ——「潮音」と四賀光子
89	花
90	『三国玲子短歌全集』
91	詩のことは
92	最近の映画から
93	マチュピチュの忘れな草
94	ティティカカ湖
95	空穂の老いの歌

- 「2006年」……………179
- 96 「うたのちから」——国立歴史民俗博物館
- 97 歌の遊び——『和歌をひらく』
- 98 社会詠と秀歌
- 99 小笠原
- 100 読書
- 101 三枝昂之『昭和短歌の精神史』
- 102 九条の会
- 103 画展を見て——高島野十郎
- 104 『明暗』『続明暗』『新明暗』
- 105 カルメン
- 106 赤い夕陽の——現代日本歌人友好訪中団
- 「2007年」……………201
- 107 いまの歌——奥村晃作
- 108 声をつくる——日本文化芸術財団
- 109 病とボクシング
- 110 福田栄一の思索的抒情
- 111 伊東悦子の太田水穂論
- 112 説経散歩——安倍晴明
- 113 九条の歌
- 114 茂吉の晶子評
- 115 綱手短歌会の二冊
- 「2008年」……………219
- 116 「新暦」創刊の頃
- 117 小説の題名から——大江健三郎
- 118 「春秋三首」
- 119 最近の歌書から
- 120 トルコ
- 121 「南平丘陵の風」
- 122 歌を付ける、歌に付ける
- 123 日本社会文学会と『蟹工船』ブーム
- 124 短歌の翻訳
- 125 『茶の本』
- 126 『源氏物語』千年紀
- 127 渡良瀬と足尾銅山

